

令和6年2月7日 公開プレゼン質疑応答 午前の部

UP-1 くまもと邦楽会館

(牧野委員)

継続してこういうすばらしい活動をなさってらっしゃいますけども、毎年同じ方が、この活動に参加をしてもよいということでしょうか？

(団体)

はい。今回は7回目になりますけれども、幼稚園の年長さんから参加してる子が来年度も希望して、小学6年生になっている、そういうこともあります。

(松本副委員長)

それに関連して、昨年度も、助成を受けられたと思うんですけども、新しく入ってこられる方っていうのはどのくらいの割合いらっしゃるのでしょうか。

(団体)

昨年度は、申込みがちょっと遅れまして別の助成金をいただいたんですが、申込みされた方は、おととしの9月ですか、新しい募集をかけたんですけども、大体20名ぐらいの応募がありました。あと随時、口コミで、ちょっとホームページを見て随時入って来られる方もいらっしゃいます。

(松本副委員長)

つまり何割位が新規なんですか？

(団体)

割合としては今、半分ぐらいです。そして上のほうになっていくと卒業していきますので、入れ替わっている。長年続けている子もいるし入れ替わっている子もいますので、土曜日主にやっておりますが、新しく始める子のレベルと、それから長年やってる子のレベルといくつかのクラスで分けてやっています。

(松本副委員長)

わかりました、ありがとうございます。

(石坂委員)

先ほど、参加者は最初20名ほどだったのが後からちょっと少しずつ増えていったというような話だったと思うんですけども、広報の仕方自体は、昨年度と今度ご予約のやり方は同じことなんですか？

(団体)

広報が1番、力不足でして、令和4年に1度、こちらの助成を受けさせていただきました、そのときにこちらの方で広報していただいたので、私どもではチラシの配布を各会館に置いてもらったりしておりますので、だいたい同じ感じですが、もうちょっと広報に力を入れたいというふうに思っています。

(石坂委員)

そうですね、せっかく開かれるのであればですね、もっと人数を集めていただくことが大事なかなあと思いましたので。それと事業の2のワークショップのほうなんですけれども、こちらは30名程度ということで予定されているようですが、使われる楽器は結構な数といいですか、ありますけど、これはもう何ですか。30名の方が、ずっと順繰りにいろんな楽器を体験されるような？

(団体)

それもありますし、30名程度と書いていますが、実際は保護者の方も含めて、80名程度参加されます。それぞれに選んでいただいて、そのほかに、どの楽器も触れる時間を設けております。最後に選んだ楽器と一緒に発表すると。去年は「おてもやん」をみんなで踊ったり弾いたりして、発表で終わりました。最後は修了証をお渡ししました。という感じです。

(石坂委員)

ありがとうございました。

(越地委員長)

若い人たち、J-POPとか洋楽とかね、そういうものに関心がある中で、邦楽に対する関心度、浸透の具合、どう受け止めてますか。

(団体)

私は学校の前に自宅がありまして、看板出してたんですけども20年全然申込みがなかったんですけども、これをやり始めましてから、特に熊本地震の後に子供が遊びに来るようになって、すごく興味があるんだなというのが逆にわかりまして、やり方が変われば、そういう参加する人が多いかなというのがわかりました。ありがとうございました。

UP-2 むすんでひらいて音楽事務所

(山口委員)

事業2の旅費で、出演者交通費1万円の1団体と記載されていますが、1団体はどちらの団体さんになりますか？

(団体)

やうちブラザーズです。3人で一緒に車で来られるので1万円で設定しました。

(山口委員)

分かりました。ありがとうございます。

(上村委員)

事業3について教えてください。ユーチューブの動画を撮影されるということで、せっかく動画撮影をされるにあたって、多くの方に見て頂く手法というか、どういった手段をお考えか教えてください。

(団体)

プロの方に撮影と編集をお願いして、その専門の方にお願いすることを、まずは試してみようと思って、私は考えています。具体的に言った方がいいですか？

(上村委員)

撮影した動画をユーチューブにアップして、多くの方に見て頂く広報、こういった形でそれを拡散していくというか、多くの方に見て頂くための手段は、どうお考えですか？

(団体)

まず障がい者の音楽ですけど、それでヒットさせるように、例えばハッシュタグを利用したりとか、主にユーチューブとか、ティックトックとか、そういった若い方が多く目にする場所に掲載することによって、いろいろ拡散、もしくは視聴が増して、いろんな人につなげることができると思っています。

(松本副委員長)

それに関連して、ユーチューブのチャンネルはもうあるんでしょうか？

(団体)

もう現在作っております。

（松本副委員長）

はい。その登録者数はどのぐらいですか？

（団体）

今現在だったら多分、身内とあとちょっと何人かだけなので、15人程度の登録者ではあるんですけども。

（松本副委員長）

そうですね。まずはそのチャンネルを、いかに登録者を増やしていくかという、何か、その方法として、今回この三つの動画を上げようっていうお考えなのかなあと思うんですけども、先ほどご意見があったように、どの程度この形をとって、より多くの方に知っていただくことができるのかなというところは、ちょっと気になるころではあります。はい。何か、もっとうまく広げれる方法を考えられるのも一つかなあというふうに思いました。以上です。

（団体）

ありがとうございます。

（石坂委員）

すいませんちょっとあの、また関連になるんですけども、その事業3のところ、先ほどご説明の中で、不登校とか引きこもりの方っていう具体的なところが出て来たんですけども、こういった方々に見て欲しいという部分の、何かアプローチといいますか、それは何か今、お考えでしょうか。それとあと、実際このユーチューブで流した場合に、どの程度の視聴者数を獲得したいとお考えでしょうか。

（団体）

すいません、まだ考えておりません。

（石坂委員）

はい、わかりました

（牧野委員）

コンサートのチラシを500枚、1000枚、2000枚とか作って参加者を、30名とか70名とか予定していらっしゃると思いますが、どのような方たちを対象にされていますか、チラシの配布先等にやはり引きこもりの方とか、そういう方たち…。

(団体)

引きこもりの方たちはコンサートには来れませんので、それ以外の支援者の方とかに、うまく伝えればいいなとは思ってますけど、今のところはここに書いてます「あいぽーと」さんであるとか、「パレア」さんであるとか、国際交流会館であるとか、そのあたりにいつも、配布させていただいて、興味のある方に来ていただいています。

UP-3 NPO 法人ガット

(山口委員)

2点教えてください。

とてもすばらしい盛りだくさんの活動をされているなぁと思います。

一つ目が、野菜とかお花の苗植えをされた後の管理、雑草の撤去だったりとか、肥料をあげるとか、そういった管理は、子供たちとか、苗植えに参加された方たちのかかわりはどうなるのかなというのが1点と、2点目ですが、学校の図書館の環境整備について、今多くの、小学校とかが図書館の使用を、ちょっと臨時休業じゃないですけどそんなふうに1回ストップさせて、先生方や、子供たち、図書委員さんとかでされてるかと思うんですが、きっとほかの学校の先生方も、ガットさんがされてるような活動を聞かれたら、ぜひうちもおっしゃるところもたくさんあるかと思うんですが、どのように学校と連絡調整したり、学校を選ばれたりされてるんでしょうか、教えてください。

(団体)

まず1点目の畑の管理なんですけど、もうそれが私たち、1番難しかったところで、やはり子供たちにそこからですね、土を耕すとか、途中の草を取るとか、肥料を蒔くとか、そういったところしてもらいたいところなんですけど、なかなか、子供たちをそんなに頻繁に集められないのが実情です。なので、もう苗を植えるところとか、収穫のときとかいったところでしか、子供たちを体験させることが出来ませんでした。その途中途中は、私たちスタッフが勉強しながらやりました。だからそこはまた、来年度の課題かなぁと子供たち自身に管理の過程も体験してもらうことが課題だと思っています。

あと図書館についてはですね、コロナ禍は、学年毎に時間を分けて貸出しをする等、私も学校教職時代がありましたので、経験あるんですけどコロナ禍過ぎまして、元の貸し出し状況に戻っている学校がほとんどです。

ただ読み聞かせ等、保護者さんが入られての読み聞かせとかは、まだ出来ていないっていう学校もあります。事業はですね、もうすぐ新事業の2年目が終わろうとしているんですけど、以前は、ほぼほぼ図書館のリニューアル活動は私たちがやってたんですよ。その頃は7校ぐらい出来てたんです。夏休みとか冬休みとか子供が来ない時期に、もう一気に行くんで

すよ3日間ぐらい、一つの学校に。で、やってたんですけれども、新事業を始めてしまったので、たくさん出来なくなって、現在は夏休みの2校程度でやっています。だから最初は、全市の小中学校全部に募集をかけてたんですけど、今は、今回は南区、今度は西区、と分けてやっています。口伝えにガットが入ったっていうので喜んでいただいて、ちょっと人気が出てきてるんですね。だから、入ってもらおうと本当にいいんだけど、というのはたくさんありますけれども、対応できる数は限られています。ただ、リニューアルした学校の司書の先生とかが、次の学校に行かれたときに、ご自分で、その学校の先生たちに手伝ってもらいながら、図書館をリニューアルされているっていうのを聞きますので、私たちのやったことが広がっていったのかなっていうのはちょっとうれしく思っているところです。

(上村委員)

すみません、最後に事業1の子供の体験活動サポートについてお伺いしたいんです、これ、事業所の図書館や塾を利用しているお子さんなど以外も、募集されるということのようなんですけども、どれぐらいの割合で外部の方を募集されるか教えてください。

(団体)

ホームページ等でも、宣伝はしてるんですけれども、なかなか利用を広げるというのが難しく、だから結局は塾に来てる子、不登校で来てる子、近所の子とかに宣伝してもらったり、自分の地域のご近所の子供がいるところとか、に宣伝したりしています。だからその、地区の子たちが自分の友達連れてくるみたいな感じですね。

UP-4 NPO法人坪井川遊水地の会

(石坂委員)

事業の2で確認なんですけども、事業の2の人件費のところをちょっと拝見しますと、1回当たり8時間というふうにしてあるんですが、これは講演会ですけども、終日ずっとされるご予定でしょうか？。

(団体)

はい。時間はですね、合わせて大体1時間ですね。一つが防災関係のテーマともうひとつが日本人と桜という講演で、20分20分ぐらいやってですね、あと10分ぐらいをボランティアさんたちですね、皆さん、ぜひこういう事業に参加してくださいと、そういうことをやっております。

(石坂委員)

実際に講演の時間だと準備とか後片づけとかちょっと入れると、今、8時間で計上してあり

ますが。

(団体)

それはですね、この地域に4校区ありまして、高平、清水、壺川、黒髪と、一つの小学校で2時間ずつで校区で8時間、一つの小学校での授業の補助で、これ、先ほど申し上げました遊水地の防災、減災についてと、それから桜の並木を植えているので、桜についての授業を合わせて大体2時間弱で、それを4校で8時間ということです。

(石坂委員)

ということですね、はい、わかりました。

(団体)

約全体で300人ぐらいの学童が参加しております。で学年がですね、3年生と6年生、学校によって違いますけどですね。

(松本副委員長)

支出の件に関して、プロジェクターの使用料が1回8000円で、高いなあと思ったんですけど、どこにお借りになられるのかなというのがちょっと気になりました。

(団体)

それはプロジェクターとスクリーン合わせての値段ですけどですね。

(松本副委員長)

どちらでお借りになられるのかなと、その8000円という所の根拠…。

(団体)

一応、見積もればそういう金額が出てきます。

(松本副委員長)

どちらで？

(団体)

ただ、まあ若干、それは変更の可能性があります。と申しますのは、学校関係にですね、今はもうかなりテレビが設備としてありますので、それを利用する場合もありますから、前はですね、一堂に会して、講堂等でプロジェクターとかでやってたんですよ。その時の見積りがその金額です。

(松本副委員長)

すみません、ご指摘になると思うんですけど、学校でもし実施されるのであれば、プロジェクトとか無料でお借りできるのかなあというふうに私は理解するんですけども、その点いかがでしょうか。学校だから、わざわざどこかから借りて、お金を払ってですね、借りて実施しなくても無料でもできるのかなあってちょっと思ったところではあります。

(団体)

そうですね、今年度、学校の設備を借用させていただいて、事業の手助けにしております。それはもう、実態に応じてですね、実際にやると考えております。もちろん見積もりもやって、それだけの領収書もつけてですね。過去にはそういう経験があったものですからですね。それで、継承しております。

UP-5 特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト・マスターズ熊本

(山口委員)

ファシリテーターの養成講座を受講されて、先ほどの受講された方のメリットというところにもあったんですが、例えば具体的に熊本市でファシリテーターとして、こちらの養成講座を受けられて、ご活躍されている方だったり、事業がありましたら教えてください。

(団体)

はい。今実際にですね、自分が悩みを持って講座に参加されるという方々に、グループワークをしていただきます。オンラインの中で行うんですが、その中にお1人ずつ進行役を入れて行くんですね。特にZ o o mのオンラインの中では、ブレイクアウトルームという部屋に入って、初めて顔を合わせる方もおられますので、スムーズに進行していく人が必要です。オンラインの中でグループが幾つもあるとそこにお1人ずつ入っていくような形と、熊本市や県で、親の学びプログラムとか家庭教育地域リーダー学校、就学前の健診、等の場で、親御さんたちに、グループになっていただくときに進行していくという役割があります。

(山口委員)

わかりました、ありがとうございます。

(牧野委員)

先ほど家庭教育リーダーがとても少ないとおっしゃいましたが、この講座を受けられた方は家庭教育リーダーとして登録されるということですね。(はい。)

そういう活動、例えば、小さい団体、小人数グループでのそういう依頼とかは、直接お願い

をしたり、学校とかを通してお願いをしたりするのか、そちらのほうでなさる活動に参加するのか、どのような手続きになっているのでしょうか。

（団体）

はいそうですね、実は私たちは3年前に前代表から引き継いだんですが、その当時2014年から2017年の4年間に、熊本市から委託を受けてこのような地域コーディネーター養成の家庭教育地域リーダーという講座を同じように8回位行っていました。実は私もその卒業生なんですが、そのときに300名、延べで300名ほど輩出したんですが、まずは、学校に依頼があって、それから熊本市に依頼があって、登録してる人たちにおりてくるんですね。今現在、熊本市においては市から私たち団体のほうに、「ある小学校から依頼があるので行ってみませんか」というふうに依頼が来ているという形です。あと熊本県からの依頼のときは、熊本市でコーディネーターとして登録した方に、直接県から依頼があったり、私たちNPOのほうにも、そういうワークショップの依頼がありますのでやはりたくさん人数がいらっしゃるといいなというのが、今の思いです。

（松本副委員長）

先ほどのお話に関連して、この家庭教育リーダーの養成講座というのは、今もう行われていないという理解でいいんですか？

（団体）

はい、今は行われていません。

（松本副委員長）

行われてなくて、こちらの、今回事業であげられている地域コーディネーター、ファシリテーター養成事業の中で育てられた方を、この家庭教育リーダーのほうに、できれば登録してもらいように勧誘していくという理解でよろしいですか？（はい。そのようにして…）わかりました。

（団体）

熊本市のその部署の方々からも、新事業としてそういう地域コーディネーターを必要としていくっていうモデル校ができるということでしたので、それに合わせて一緒にやっていきたいなというふうに思っています。

（松本副委員長）

すいません、担当の課から、補助とかはないんですね。

(団体)

今現在はありません。現状としては私たちがやっていこうかと思って、以前は、熊本市で4年間やったときは、委託費用があったんですけども、もうそれを待つてられないので、私たちはもう自分たちで今回まずやってみようと思っています。

(松本副委員長)

はい、わかりました。ありがとうございます。

越地委員長：午前の部講評

皆さんの団体の取組、それから、こうしたいという想いを聞かせてもらいました。

ありがとうございました。

このNPOとかボランティア団体に共通してあるのは、これはやっぱり熱意、志なんだろうね。

共通してないのがお金だろうと思います。

まず、共通してあるもの、志、ビジョン、熱意ですね。

これはもう本当に必至と伝わってきます。

どこかの団体のプリントにですね。70万を超える人口を抱える熊本市では、行政ではどうしても手の届かないところがいっぱいあるんだと、いうところから始まった書き方がありました。まさにそのとおりですよ。そういう隙間といいましょうか、そういうところを、自分たちの手で埋めていくとか。あるいは、弱者と言われる人たちへのまなざしというのを、地域目線で考えてみる。もしくは次の世代にどうバトンタッチしていくかという点を、自分たちは考えていきたい。そういうのが伝わってくるわけですね。

これはぜひ、その視線というのがないとこれからの社会は回らないと思いますので、そうした必要性というのは出てくると思います。ただ、それを実現するためにやっぱり伴うのが資金ですよ。お金、資金に苦労してるからこういう助成も出すんだということになるわけです。

そこで、この資金というのをどうやって確保していくか。助成がある間はいいかもしれません。でもいつかはこれ、なくなるわけでしてね。当然皆さん、今も実践しておられると思いますが、自立していく、つまり助成なしでこの活動をやっていくにはどうすればいいかという視点を今も心がけておられると思いますが、ぜひこれまで以上に意識してもらいたいなと思います。

といいますのも、お金を集めて安心して楽をしてくださいという意味じゃなくて、お金、資金を確保するということ、例えば会費をもらう、あるいは、入場料とか云々ということにもなるんでしょう。これはですね、単にお金を集めるというよりも、じゃあ、自分たちのやってることは、お金をいただいてまでやる価値があるのか。それだけの内容が伴っているのかという自問自答にもつながると思います。やっぱり魅力あるプログラム、魅力ある運営で

ないと、とてもお金まで払うことは出来ませんよね。そういう意味で、資金を確保することを意識することは、プログラムだったり活動を見直す、ということにもつながると思います。

それからもう一つ、地域団体、あるいは地域の事業所とかたくさんあって、こういうところは志を共有するところも少なくないんですね。そういうところにアピールすることで、そういうところからまた協力をいただく。そういう形で、資金面の確保がつながればですね、これは、活動内容のパワーアップにもつながることかなと思っています。

どうぞ、あるのは志、ビジョン、もうそれが1番支えなんですけども、それだけでは現実には展開しない。そのときの資金確保をどうやっていくか。資金を意識することは、活動内容を、みがいていくということだという連鎖反応もあるかと思いますので、そういう点をこれから心がけてですね、さらに有意義な活動を続けてもらいたいと思います。以上です、ありがとうございました。